

チェコスロヴァキア時代の映画ポスター

チェコは長い間隣国から支配され、民族消滅の危機にまで追いやられた歴史を持つ。1620年の白山の戦いから、1918年にチェコスロヴァキアとして300年ぶりの独立を果たすも、再びドイツ・ナチスに侵略され、第二次世界大戦後から1989年に共産党政権が崩壊するまでの約半世紀にわたリソ連の支配下に置かれた。

芸術家たちは公式な場で自由に芸術活動を行うことを許されなかったため、表現の場を求め、さらに生活の糧を得る手段として、絵本やエディトリアルデザイン、演劇や映画、展覧会、コンサートなどの催しを告知する文化ポスターなどのグラフィックデザインの分野で活躍した。社会主義時代のチェコスロヴァキアには、資本主義国には見られる商業ポスターが存在せず、このような文化的なポスターなどの広告が著しく発達を遂げた。

その中でもひととき異彩を放つのが映画ポスターである。1960年代、特にソ連による政治的な規制が緩和され、検閲がほとんど機能しなかった時代は、作家の意思が前面に押し出され

ているような、個性的なポスターが多く見られ、それらは表現に多様性があり独特な面白さを持っている。

チェコスロヴァキアの映画館では、国内で製作された映画だけでなく、外国製の映画も上映されていた。資本主義国の映画ポスターは一般的に、俳優や重要な名場面をリアルなイラストレーションで仕上げているものが多く、タイトルを大きく目立たせることで人々の興味をひくようにデザインされている。

一方、チェコスロヴァキアの映画ポスターは映画の内容をそのまま忠実に説明するものではなく、作家個人が解釈したイメージで映画が表現されている。そして文字情報はタイトル、製作者、俳優の名前など最低限にとどめられ、ヴィジュアルを重視したインパクトのある構成が特徴である。

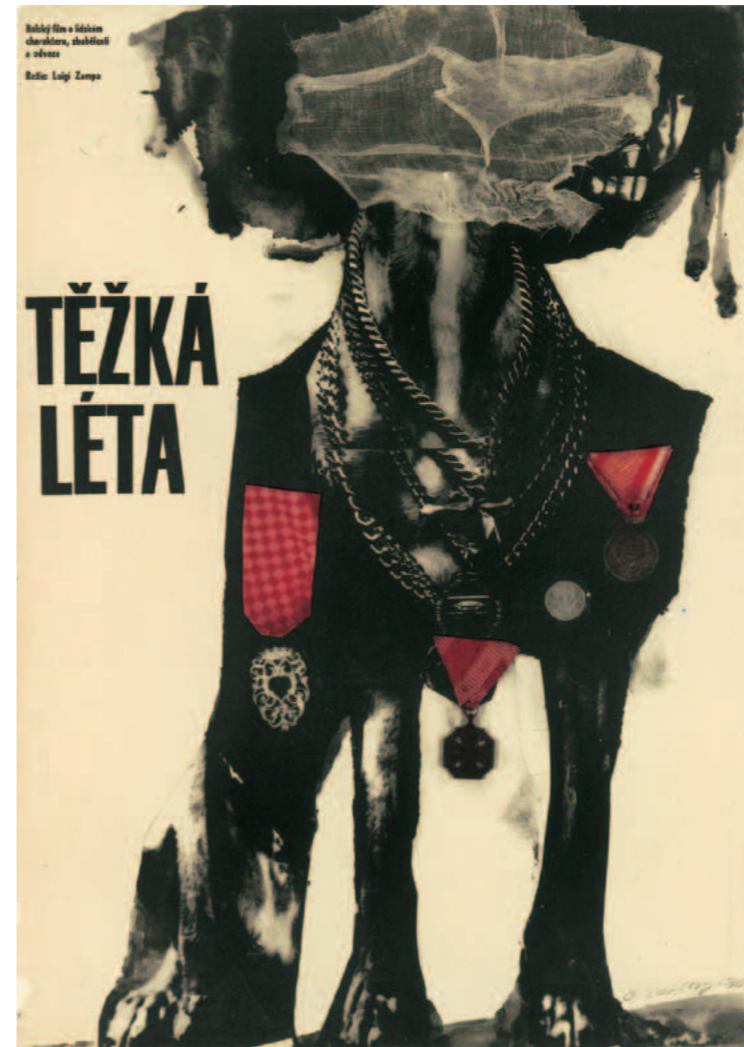
ズデニェク・ツィーグレルは、1964年にイタリアで公開された映画『誘惑されて棄てられて』のポスターを手がけた。この映画は主人公の女性が自分の姉の婚約者によって妊娠させられるが、対面を気にしてふたりを結婚させようとする親族に対し、シチリアの風習を重んじてお互いが結婚を拒絶する、風刺の効いた艶笑コメディである。ポスターには、主人公の女性の顔が大きく横向きに描かれ、耳元に女性を悩ませる最大の犯人である姉の婚約者が蛇のようなとぐろを巻いて纏わり付いている。コメディ的な要素と深刻な問題とが折り重なった複雑な映画の内容をフォトモンタージュと背景色の組み合わせでユーモラスに表現している。

ツィーグレルは、プラハのチェコ工科大学で建築を学んだのち、映画、展覧会、演劇のポスターや書籍の表紙デザイン、テレビ、広告、販促物、機関や企業のロゴなどのデザインを手がけた。

1948年イタリアで製作・公開された映画『困難な年』のポスターは、カレル・タイスイクによってデザインされた。主人公が首に幾つもの重そうな鎖を付けられている怪物に喩えられて、映画の中で象徴的なモチーフとなっている勲章を三つ付けており、このストーリーの重々しさがポスターから伝わってくる。映画を見終わった時に、この映画の恐怖感がポスターから読み取れるデザインと言える。

タイスイクは、コラージュ技法を得意とし、古い解剖図や模様が描かれた包み紙、切手、写真などの印刷物だけでなく、布やガーゼなどの様々な素材、燃やした紙など自ら作った素材を組み合わせた芸術的な映画ポスターを作っている。彼は、プラハのマーネス芸術家クラブ絵画学校を卒業後、プラハ工芸美術大学で学び、在学中にブリュッセルの王立芸術学院へ留学している。

カレル・ヴァツァによってデザインされた映画『素晴らしきヒ



カレル・タイスイク
『困難な年』1967年 AN.4738-48
(1948年 イタリア映画)

コーキ野郎』のポスターは、1965年公開のアメリカ映画である。アメリカで制作された映画ポスターは、映画のオープニングとエンディングのアニメーションに使われているイギリスのイラストレーター、ロナルド・サールのイラストを使っているのに対し、ヴァツァのポスターは彼が選択したイラストレーションを使用している。

ヴァツァはプラハの応用美術学院で画家のエミール・フィラに学んだ画家であり、ポスターや本の装丁、イラスト、舞台美術を手がけるデザイナーでもあった。

彼の映画ポスターは、絵画を使ったものや、デフォルメしたイラスト、写真と絵画のコラージュなど、手法と表現の幅が広がったことが特徴である。

チェコスロヴァキアでは、高い芸術性を映画ポスターに取り入れるべきという国の方針を編集者やアーティストたちが理解し、推し進めていた。

また映画ポスターは、中央映画配給会社の本部に設置されていた承認委員会によって、政治的な正当性が審査された。この委員会のメンバーにはツィーグレルやヴァツァなどの芸術家が加わっており、彼らは検閲などの制約から映画ポスターの芸術性を守る重要な役割を果たした。

チェコスロヴァキア映画ポスターに特徴的な抽象性は、観る側が想像力を働かせる必要がある。しかし作家達の多様な芸術的表現の追求が根底にあったために、情報伝達の精度を下げることなく、むしろ積極的なコミュニケーションを成立させる役割を担ったと推察される。

すなわちチェコスロヴァキア映画ポスターの掲示空間は、観る人が積極的に関与して初めて成り立つ世界だったということである。それは制約の多い社会主義社会に暮らす大衆に、親しみや楽しみをもたらしていたと考えられる。

美術工芸資料館では、「チェコグラフィックデザイン—ポスターとマッチラベルを中心に—」展を開催し(2016年6月20日~8月8日)、当館の所蔵するチェコスロヴァキア時代の映画や演劇、展覧会、コンサートなどのポスターに合わせて、当時の日用必需品であったマッチラベル(個人蔵)を一挙公開する。

美術工芸資料館 技術補佐員 中川可奈子



ズデニェク・ツィーグレル
『誘惑されて棄てられて』1965年 AN.4738-43
(1964年 イタリア映画)



カレル・ヴァツァ
『素晴らしきヒコーキ野郎』1966年 AN.4738-40
(1965年 アメリカ映画)